



力強く春を呼ぶ

2月3日(土)、一迫地区の真坂商店街で節分の恒例行事「第59回春を呼ぶ裸たるみこし」が開催されました。

この行事は、子孫繁栄や無病息災などを祈願するため、さらしや法被姿の男女が酒だるを積んだみこしを担ぎ、商店街を練り歩くものです。今年は、男女合わせて53人が参加。沿道から浴びせられる力水にずぶぬれになりながら「わっしょい、わっしょい」と力強い掛け声を上げ、栗原に春を呼び込んでいました。



寒さに負けず荒行で祈願

1月15日(月)、一迫地区の水神社境内にある小僧不動の滝で「第43回小僧不動の滝寒中みそぎ」が行われました。

この行事は、毎年小正月の1月15日に行われ、今年は市内外から男女合わせて38人が参加。雪が舞う極寒の中、参加した人たちは「エイホ、エイホ」、「ハラエドノオオカミ」などと大きな掛け声で気合いを入れ、高さ約7メートルから流れ落ちる滝に打たれながら、今年一年の無病息災や五穀豊穡などを祈願しました。



住みたい田舎全国総合1位

株式会社宝島社が出版した田舎暮らしの本2月号「2024年版第12回住みたい田舎ベストランキング」において、栗原市が全国エリア人口5万人以上10万人未満の市総合部門1位、東北エリアでは3度目の1位に選ばれました。

このランキングは、移住支援策や、育児・医療、自然環境などを点数化し、決定されるものです。

市では今後も「子育てするなら栗原市」を合言葉に、大人も子どもも笑顔になれるまちづくりを推進していきます。



〔左から〕小川さん、和良品さん
長寿100歳おめでとございます

1月14日(日)に小川正子さん(栗駒上小路下)が、2月3日(土)に和良品たき子さん(一迫滝野)が、100歳を迎えられました。

小川さんは、和服裁縫が得意で、着物を仕立てるのが上手とのこと。毎日欠かさず日記を付けていて、右手が不自由となってからも、左手で取り組んでいるそうです。

和良品さんは、5人の子育てに励みました。現在は、相撲中継を見たり、歌を聞いたりしながら、日々を穏やかに過ごされています。



将来に向けて情報収集

2月6日(火)、栗駒地区のみちのく伝創館で、高校生を対象とした就職説明会「くりはらジョブフェア2024冬」を開催しました。

市内の49事業所などが参加した会場では、市内の高校1・2年生211人が、事業所などの社員から業務内容や、福利厚生などについて説明を受けました。

将来に向け、情報収集に励んでいた高校生からは「実際の仕事内容を知ることができ、新しい発見もあった」という感想が聞かれました。



闘病生活を乗り越えて

2月4日(日)、歌手でタレントの堀ちえみさんを講師に「心にきざむ文化講演会」を、栗原文化会館で開催しました。

「ステージⅣの舌ガンを乗り越えて生きる～キャンサーギフト・大切な家族～」と題して行われたこの講演会では、堀さん自身の闘病生活や、家族の大切さなどについて語られました。

会場には、771人の参加者が集まり、明るく力強く話す堀さんの姿は、前向きに生きることの大切さを教え、希望と勇気を与えていました。



一年の安寧を願う

年始の風物詩の一つ、どんと祭が市内各地で開催されました。

1月14日(日)には「鶯の里どんと祭」が、15日(月)には「栗駒火祭りどんと祭」と「花山どんと祭」が開催され、会場では笑顔で新年のあいさつを交わす人の姿や、だるまなどの縁起物を買求める人の姿などが見られました。

訪れた人たちは積み上げられた正月飾りや、年神様を送る神聖な火に手を合わせ、今年一年の安寧を願っていました。



子どもたちの教育に活用

1月12日(金)、宮城県一迫商業高等学校から寄付金をいただきました。

同校では、地域産業界と連携を図りながら、職業人として地域社会に有意な人材を育成することを目的に、平成17年度から「栗原版デュアルシステム」に取り組んでいて、その中の「販売実習」活動で得られた収益金を、市へ全額寄付いただいたものです。

寄付金は今後、生徒皆さんの意向を踏まえ、市内の子どもたちの教育に活用していきます。